令和８年度中心市街地通行量調査結果報告(第 10 回)

１．調査の目的・方法

中心市街地における通行量の状況を把握し、商店街のにぎわいや人の流れの変化を確認するため、本通地区２地点（葛上精肉店前、まことプラザ前）および仲ノ町地区１地点（スミヨシ文具前）で調査を実施した。歩行者、自転車、バイク、自動車を対象に、平日・休日の通行量を集計し、過年度の結果と比較した。

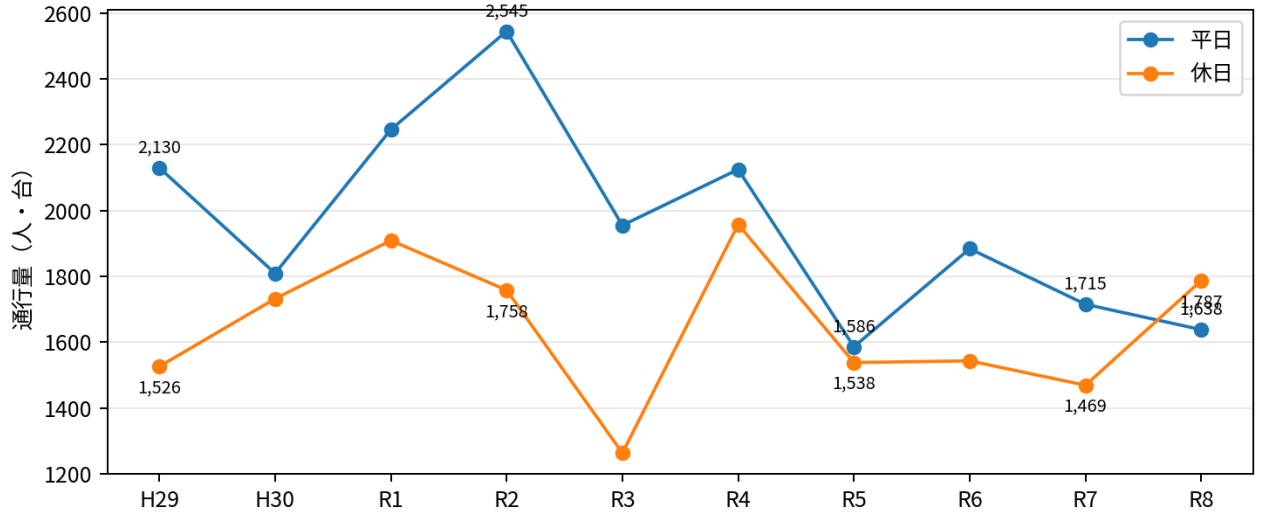
２．令和８年調査の概要

区分	令和７年	令和８年	前年比
平日総通行量	1,715	1,638	77 減（4.5%減）
休日総通行量	1,469	1,787	318 増（21.6%増）

令和８年の総通行量は、10/15 平日 1,638 人・台、休日 1,787 人・台であった。平日は前年から 4.5%減少した一方、10/18 休日は 21.6%増加しており、休日の通行量が大きく回復・増加した点が今年の特徴である。

３．調査開始以降の全体傾向

図１　調査開始以降の総通行量の推移



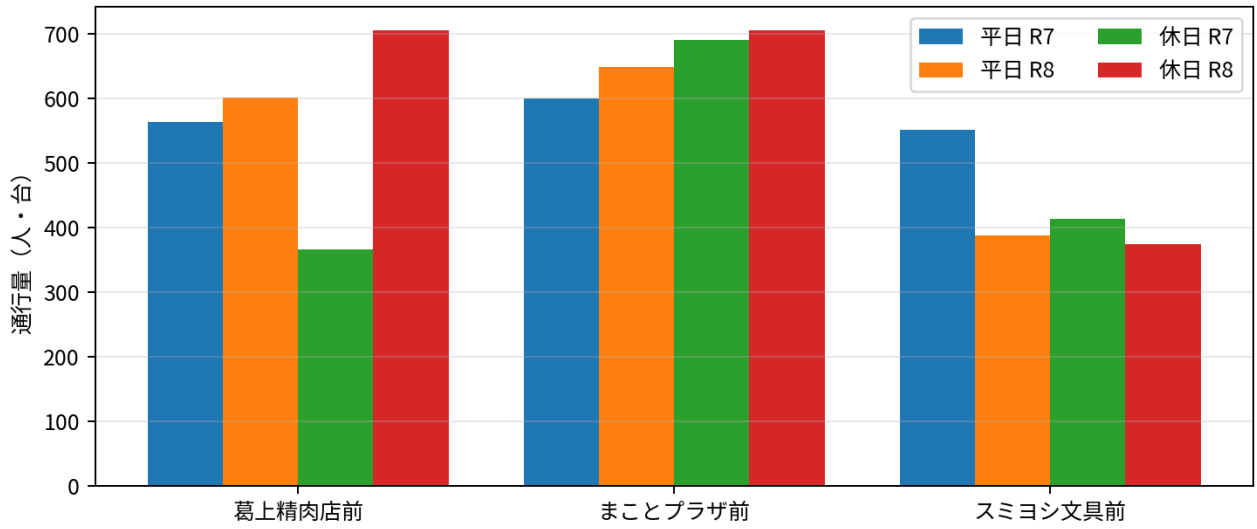
調査開始の平成 29 年以降をみると、平日の総通行量は平成 30 年に減少した後、令和２年に 2,545 人・台まで増加した。その後、令和３年に減少し、令和５年に 1,586 人・台まで落ち込んだ。令和６年には 1,884 人・台へ持ち直したが、令和７年、令和８年と再び減少し、令和８年は 1,638 人・台となった。平成 29 年の 2,130 人・台と比べると約 23%少なく、長期的には平日の通行量が低い水準にある。

休日は年ごとの振れ幅が大きく、令和３年に 1,263 人・台まで減少した後、令和４年には 1,958 人・台へ増加した。令和５年・令和６年は 1,500 人・台程度、令和７年は 1,469 人・台であったが、令和８年は 1,787 人・台へ増加した。平成 29 年の 1,526 人・台と比較すると約 17％増であり、今年は休日の通行量が調査開始時を上回った。

なお、調査日の天候は年によって異なり、過年度には雨や曇りの日も含まれる。通行量の増減を単純に地域の活性度だけに結びつけず、天候やイベント、周辺店舗の営業状況なども踏まえて継続的に見る必要がある。

４．調査地点別の比較

図３　調査地点別の比較（令和７年・令和８年）

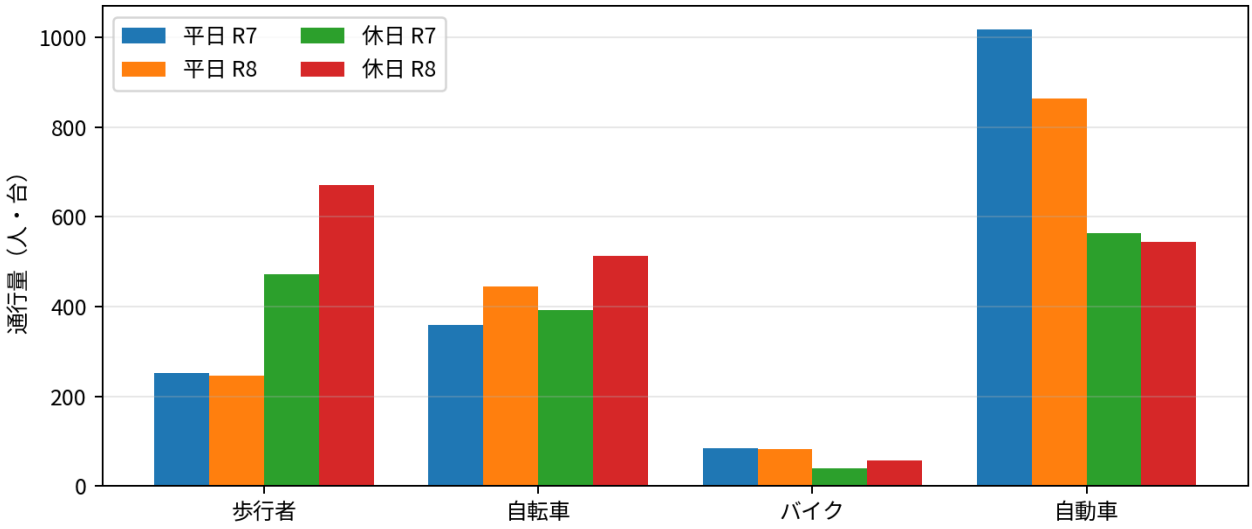


調査地点	平日 R7→R8	増減率	休日 R7→R8	増減率
葛上精肉店前	564→601	+6.6％	366→706	+92.9％
まことプラザ前	600→649	+8.2％	690→706	+2.3％
スミヨシ文具前	551→388	－29.6％	413→375	－9.2％

本通地区の２地点では、平日・休日ともに前年を上回った。特に葛上精肉店前の休日は 366 人・台から 706 人・台へ大幅に増加している。一方、仲ノ町のスミヨシ文具前では平日・休日ともに減少した。中心市街地全体の増減だけでなく、地区・地点ごとに人の流れが異なることが分かる。

５．通行手段別の変化

図２　通行手段別の比較（令和７年・令和８年）

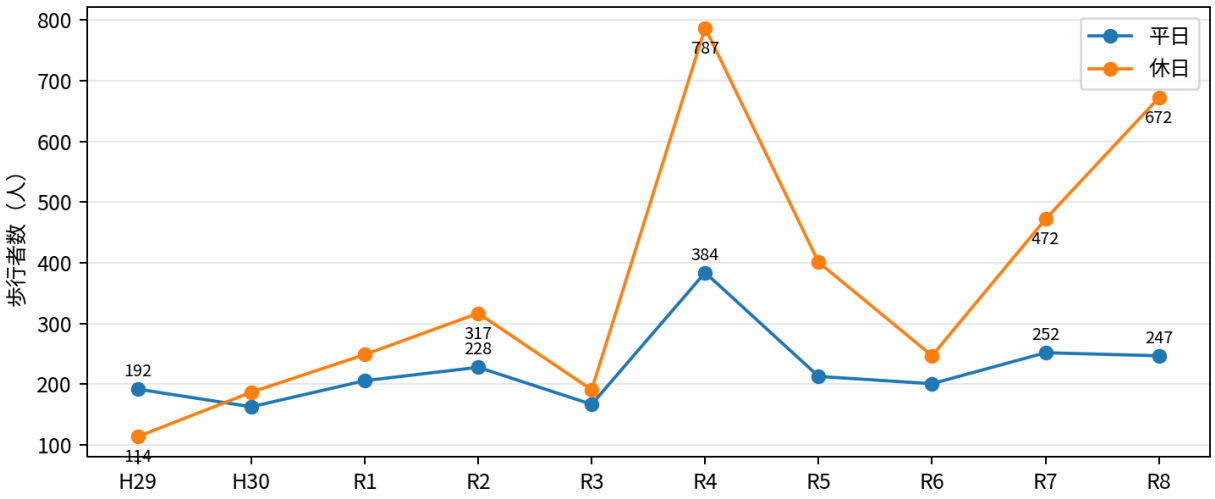


通行手段	平日 R7	平日 R8	休日 R7	休日 R8
歩行者	252	247（－2.0%）	472	672（＋42.4%）
自転車	359	445（＋24.0%）	393	514（＋30.8%）
バイク	85	82（－3.5%）	40	57（＋42.5%）
自動車	1,019	864（－15.2%）	564	544（－3.5%）

平日は自転車が 24.0%増加した一方、自動車は 15.2%減少した。休日は歩行者が 42.4%、自転車が 30.8%増加し、バイクも増加したが、自動車は減少した。休日の総通行量増加は、主に歩行者・自転車の増加によるものと考えられる。

６．歩行者通行量の推移分析

図４　歩行者通行量の推移（平成29年～令和８年）



歩行者の通行量は、平日と休日で異なる動きを示している。平日は平成 29 年の 192 人から令和 2 年の 228 人へ増加した後、令和 3 年に 167 人まで減少した。令和 4 年には 384 人と一時的に大きく増加したが、令和 5 年以降は 213 人、201 人、252 人、247 人と推移し、令和 8 年は前年とほぼ同水準となった。令和 8 年の平日は令和 7 年比で 2.0%減、平成 29 年比では約 29%増である。

休日は平日より変動が大きい。平成 29 年の 114 人から令和 2 年の 317 人へ増加した後、令和 3 年は 191 人に減少した。令和 4 年には 787 人と突出して増加し、翌年以降は 401 人、247 人、472 人、672 人と大きく上下している。令和 8 年は 672 人で、前年の 472 人から 200 人（42.4%）増加し、今回の調査期間では令和 4 年に次ぐ高い水準となった。

令和 8 年は、休日の歩行者通行量が大幅に増えた一方、平日はほぼ横ばいであり、歩行者の増加は主に休日に現れている。休日の増加には、調査日の天候、地域行事やイベント、周辺店舗の営業状況などが影響した可能性もあるため、通行量だけで理由を断定することはできない。今後は調査日ごとの天候・イベント等を記録し、増加した歩行者が商店街への立ち寄りや買い物につながっているかも確認することが重要である。

7．まとめと今後の課題

令和 8 年は、平日の総通行量が前年を下回った一方、休日は大きく増加した。経年でみると、平日は令和 2 年の高い水準から減少傾向が続き、令和 6 年に一時的な持ち直しが見られたものの、直近 2 年は減少している。休日は年度ごとの変動が大きく、令和 8 年は調査開始以降でも比較的高い水準となった。

今後は、休日に増加した歩行者・自転車の流れを商店街での買い物や飲食、イベント参加につなげる工夫が重要である。また、通行量が減少した仲ノ町地区については、周辺店舗の営業状況、駐車・駐輪環境、歩行者の動線などを確認し、地域の実情に応じた対策を検討することが望まれる。次回以降も同じ地点・時間帯で調査を継続し、天候やイベント等の条件を記録することで、より正確な経年比較につなげたい。